

現状のリスク情報や取組状況の共有
各機関の減災に係る取組状況等
—気象庁 新潟地方気象台—

平成28年8月4日

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方（提言の概要）

背景

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」（平成27年1月 国土交通省）

- 雨の降り方が変化していること等を「新たなステージ」と捉え、危機感をもって防災・減災対策に取り組むことが必要。最悪の事態も想定しつつ、今後の検討の方向性についてとりまとめ
- 命を守るため、避難を促す状況情報の提供、避難勧告等の的確な発令のための市町村長への支援が必要であるとともに、大規模水害等における広域避難や救助等への備えの充実が必要

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方 （平成27年7月29日 交通政策審議会 気象分科会 提言）

防災気象情報

- 可能性が高くなるとも、社会に大きな影響を与える現象が発生するおそれを積極的に発表
- 危険度やその切迫度を分かりやすく提供

早急実現可能な改善策

- ①翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供
 - ②実況情報の提供の迅速化
 - ③メッシュ情報の充実・利活用促進
 - ④時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示
 - ⑤タイムライン支援のため数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供
- 市町村等への支援や住民への普及啓発活動の継続
 - 分かりやすい防災気象情報となるよう不断の見直し

観測・予測技術

- 観測・予測技術は防災気象情報の基盤

概ね10年先を見据えた取組

- ・積乱雲：
ひまわり8号の利用技術、次世代気象レーダーの導入や利用技術
- ・集中豪雨：
水蒸気の観測、メソアンサンブル予報技術※
- ・台風：
強度予報の延長、進路や雨・高潮等の予測の改善
- 研究～実用化まで担う気象庁の総合力の発揮
- 国内外の関係機関との更なる連携の促進
- スーパーコンピュータシステム等の業務基盤の維持・機能向上

※初期値や条件がわずかに異なる複数の予測を行い、最も起こりやすい現象や現象の起きる確度を予測する技術

防災気象情報改善に関する今後のスケジュール（予定）

平成28年度	5月	○ 土砂災害警戒判定メッシュ情報の分かりやすい表示の実施 (気象庁ホームページ) →実施済み(5/24)
	出水期	○ 「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の試行 ・防災情報提供システムWEBコンテンツとして試行的に表示 ・対応する新たな「気象警報・注意報」及び「警報級の可能性」のXML電文を、 希望される機関に試行的に配信 ○ 気象等特別警報の「注意警戒文」の文章表現の改善を実施
	9月	○ 記録的短時間大雨情報の迅速化の実施
	12月以降	○ 竜巻注意情報の発表単位の細分化の実施
平成29年度	出水期までに	○ 「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の運用開始 ・防災情報提供システムに加え、気象庁ホームページでの表示開始 ・新たな「気象警報・注意報」及び「警報級の可能性」のXML電文の運用開始 ○ 浸水雨量指数の大雨警報(浸水害)の発表基準への導入及び、 メッシュ情報の提供開始 ○ 精緻化した流域雨量指数の洪水警報の発表基準への導入及び、 メッシュ情報の提供開始 ○ メッシュ情報の技術を活用した大雨特別警報の発表対象区域の 改善を開始
	3月(目途)	○ かな漢字形式等による電文の提供終了